様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３４７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８０７３０

研究課題名（和文）高野文化圏における人口変動と地域維持システムの歴史社会学的研究

研究課題名（英文）Historical Sociological Study on Population Change and Regional Maintenance System in Koya Culture Area

研究代表者
森本　一彦（MORIMOTO, Kazuhiko）

高野山大学・文学部・准教授（移行）

研究者番号：２０５３６５７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）： 高野山大学図書館所蔵の増幅院文庫や丹生家文書の翻刻を行った。『高野山時報』の目次の戦前の部分を入力し終えた。人や物の移動について高野山を中心に分析を行った。高野山周辺において移動や信仰についての調査を実施した。他の外部資金を獲得して地域おこし協力隊についての調査を始めた。毎年テーマを決めて、高野文化圏研究会シンポジウムとして開催するとともに、ワークショップを開催した。これらの情報は研究会のHPで発信している。初年度については報告書を作成した。今後３年間の報告書を発刊する予定である。

研究成果の概要（英文）：I reprinted the Zofukuin Bunko and the Niu family document in the Koyasan University Library. I finished entering the prewar part of the table of contents of "Koyasan-ziho". I analyzed the movement of people and things around Koyasan. I conducted a survey on movement and faith around Koyasan. I got other external funds and started investigating Community-Reactivating Cooperator Squad. Every year I decided the theme and held as a symposium of Koya culture zone study group. I held a workshop. Those informations is transmitted by the HP of the study group. I made a report on the first year. I are planning to publish a report for the next three years.

研究分野： 社会学、民俗学、歴史学

キーワード： 地域社会　高野文化圏　人口変動　歴史社会学

１．研究開始当初の背景

①研究の学術的背景

2004 年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された高野山の大きな特徴は、真言宗の本山であり、周辺地域との密接な関係によって宗教環境都市が形成・維持されてきたことにある。高野山をめぐる関係性は、信仰面では高野詣や弘法大師信仰などを中核にして全国に広がっているが、山岳修験においても、吉野、大峰、熊野とともに高野山もその中核を構成し、高野山が死者の霊が集まる場所とする骨上りの慣行は、和歌山県を超えて、他府県に広がっている。高野山に関する研究は、松長有慶『密教・コスモスとマンダラ』、五来重『高野聖』、中牧弘允の企業墓の研究をはじめ、仏教学、密教学、仏教美術史、文学、歴史学、民俗学、人類学などの膨大な研究が発表されている。

高野山が真言宗本山であり、世界遺産であり、国宝などの仏教美術品を多く持っており、山蔭加春夫『中世高野山史の研究』などの中世史による荘園研究を除けば、これまでの研究は主として高野山上に限定されてきた。人類学の中牧弘允が奥の院の企業墓を対象とした研究や、仏教民俗学の五来重や日野西真定も周辺地域については高野山を論じるための事例として位置づけた。

このような中で、研究代表者と民俗学や歴史学の中堅研究者を中心として『高野町史』が編纂され、周辺地域の本格的な調査がおこなわれた。その成果として高野山と周辺地域が信仰面、経済面、社会面で密接な関係にある「高野文化圏」の存在を提示した。高野山上の仏具店、印刷屋、桧皮葺き屋、胡麻豆腐など各種商工業者が寺院を支えており、周辺集落では位牌作り、箸削り、槙の栽培、薄板製造、炭焼きなどの原材料の提供や加工が行われており、集落ごとの分業化が見られた。また、宿坊の手伝いなど高野山へ働きに行く人も多く、人的移動も見られた。近年まで、野菜を高野山上の寺院に納める雑事を続けていた集落もあった。

宗教史や荘園史に関する高野山研究は、膨大な蓄積を持っているが、未だにその全容は明らかにされておらず、周辺地域の調査はこれまでほとんどおこなわれてこなかった。『高野町史』によって高野文化圏における史料調査や民俗調査が本格的におこなわれたことを契機として、それを深化させるとともに、継続的な調査研究によって、総合的な高野文化圏の実態を浮き彫りにするとともに、現在は少子高齢化・過疎化によって衰退が著しい地域が歴史的にどのように維持されていたのかを分析することを通して限界集落というレッテルを克服し、持続可能な地域社会の提示を試みる。

さらに、本研究を通して、古文書、写真、映像、図書、フィールドワークによる記録などの地域遺産や生活遺産を収集し、高野文化圏の宗教、生活、経済、流通の個別の実態と文化圏の構造を明らかにするとともに、それらの地域遺産や生活遺産をデータベース化して保存し、地域住民や研究者に公開するシステムを構築することを目指す。

研究代表者は、研究の実践的取り組みとして、高野文化圏研究会を中心とした試みを始めており、シンポジウムやワークショップを実施したり、自治体のデジタル化にボランティアにとして参加したりして、資料や研究成果の共有化や成果の地域還元を実施している。研究を核にしながら、官民学の交流の場を設けている。

２．研究の目的

世界遺産である高野山は、真言宗の本山として 1200 年の歴史を持つ宗教都市であり、密教学、文学、歴史学、民俗学、人類学、社会学などの研究成果があるが、国宝を含めて多くの資料の全容は解明されていない。また、高野山は第 1 次産業が禁止されるとともに、近世においては女人禁制が守られていたために人口の再生産が行われない純粋な都市であり、周辺地域が物や人を供給し支えてきた。高野山を中心として周辺地域との政治・経済・文化における密接な地域圏である「高野文化圏」が形成されていた。本研究においては、この「高野文化圏」を地域の構造を歴史的、民俗学的、社会学的に総合的に分析することを通して、地方都市と周辺地域の持続的な関係性を提示して、地域づくりの方向性を提示することを目的とする。

３．研究の方法

本研究では、高野文化圏の総合的な構造的な研究をめざし、資料収集を進めるとともにデータベースを作成して、研究者との連携を図る。高野山大学図書館・密教文化研究所の資料調査を行うとともに、周辺の自治体史の編纂によって収集されたフィールド調査のデータや歴史資料を活用する。当該地域の資料は情報の公開体制が未整備であるので、この機会に可能な限り公開体制を整備する。フィールドワークについては、高野山上の商家・職人・寺院にインタビューをおこない、物と人の移動を調査し、伊都郡を中心として

周辺地域においても高野山への人と物の移動を中心としてインタビューをおこない、高野山文化圏の交流関係を明らかにする。フィールドワークにおいては、近代の変遷が中心になるが、特に交通の変遷との関係で周辺地域の盛衰を検討することによって、過疎化による限界集落化の原因を究明する。

４．研究成果

本研究は、高野文化圏の総合的研究をおこない、その成果を研究者や一般市民に公開すべく準備を進めた。特に人や物の移動を中心に研究をおこなった。

歴史資料については、江戸時代の高野山内の住職の経歴が書かれた「金剛峯寺諸院家析負輯」のデータ入力をおこなった。データ入力は山内住職 897 名分であり、全体の 10 分の 3 程度が完了した。その成果は比較家族史学会研究大会のミニ・シンポジウム「高野山における人口維持システム」等で口頭報告するとともに、森本一彦「前近代における僧侶の移動」(『比較家族史研究』31 号）として刊行した。

高野山および周辺の古文書については、橋本市の田中家文書については、和歌山県立博物館、和歌山県立文書館、高野町教育委員会などの職員に協力していいただき、文書整理を行い、目録作業を開始した。2 年間で集中的に作業をおこない、17 箱分の古文書の目録を作成した。高野山大学図書館所蔵の古文書については、全体把握に終わり、目録作成には至らなかったが、金剛三昧院本『御手印縁起略記解』を翻刻するとともに、他の写本についても検討を行い、木下智雄、土居夏樹、榊原啓優、川染龍哉、森本一彦「金剛三昧院本『御手印縁起略記解』について」(『密教文化研究所紀要』29 号、2016 年）として公刊した。また丹生家文書についても翻刻作業を始めた。高野山金剛峯寺が発行する『高野山時報』の目次について、戦前の部分の入力がほぼ終了し、校正段階に入っている。密教文化研究所に保管されている山内の歴史資料のリストの入力を行う予定であったが、私立大学研究ブランディング事業が採択されたために、分担を決める必要があり、作業は中断している。また寒川町文書館に保管された高室院文書のマイクロフィルムのデジタル化については所蔵者から許可が得られていないので、見送った。

フィールド調査については、高野山上の商家の移動を中心にインタビュー調査を実施した。インタビュー件数は多く確保できなかった。アンケート調査についても住民への理解を得ることがむずかしく、回収率が期待できない状況であると判断して、今回の研究では見送った。高野山周辺の高野町、九度山町、紀美野町、かつらぎ町などでも移動や信仰に関する調査を実施した。高野文化圏下における文化の伝播を知るということで、納豆を中心とする食文化の調査も実施した。また集落の特徴をつかむために、高野山周辺の自治体で採用されている地域おこし協力隊の調査も始めた。

社会への発信としては、高野文化圏研究会のシンポジウムを開催するとともに、ワークショップを開催し、研究者だけではなく、地域住民に成果の発信を行った。2014 年度は「高野山とデジタルアーカイブ―これまでと今後の課題―」を開催した。iPad 版高野山ナビの構築のための調査とともに、映像撮影もおこなった。また 9 月と 3 月には地域おこし協力隊の研修交流会を実施した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4 件）

① 森本一彦、特集によせて、比較家族史研究、査読有、31 号、2017、4-6
② 森本一彦、前近代における僧侶の移動、比較家族史研究、査読有、31 号、2017、43-66
③ 木下智雄、土居夏樹、榊原啓優、川染龍哉、森本一彦、金剛三昧院本『御手印縁起略記解』について、密教文化研究所紀要、査読有、29 号、2016、1-49
④ 森本一彦、大学研究室所蔵の社会調査報告書のデータベース化の諸問題、フォーラム現代社会学、査読有、13 号、2014、125-132

〔学会発表〕（計　　件）

① 森本一彦、近世における先祖祭祀と家、日本人口学会関西部会、2017 年 3 月 25 日、神戸大学
② 森本一彦、高野山の伝統文化、和歌山県高等学校社会科研究協会、2016 年 10 月 12 日、高野山大学
③ 森本一彦、高野山周辺の先祖祭祀―モライマツリを中心として、高野山大学同窓

会和歌山支部総会、2016 年 6 月 26 日、和歌山ビック愛

④ 森本一彦、高野文化圏における交流について、食文化研究会（招待講演）、2015 年 11 月 15 日、高野山大学

⑤ 森本一彦、前近代における僧侶の移動―金剛峯寺析負輯を中心として―、比較家族史学会秋季研究大会、2015 年 11 月 14 日、高野山大学

⑥ 森本一彦、高野文化圏における歴史・民俗、第 35 回近畿建築祭和歌山大会（招待講演）、2015 年 10 月 3 日、高野山大学

⑦ 森本一彦、高野山麓の民俗―盆行事を中心として、松原市夏季歴史講座（招待講演）、2015 年 7 月 25 日、松原市文化会館

⑧ 森本一彦、高野文化圏の生活文化、建築学生ワークショップ in 高野山（招待講演）、2015 年 7 月 4 日、高野山大学

⑨ 森本一彦、高野山の僧侶の移動について―『金剛峯寺諸院家析負輯』を中心として―、平成 26 年度第 3 回高野山大学密教文化研究所研究会、2014 年 12 月 17 日、高野山大学密教文化研究所

⑩ 森本一彦、高野山の僧侶の移動について―『金剛峯寺諸院家析負輯』を中心として―、京都民俗学会第 33 回年次研究大会、2014 年 12 月 7 日、職員会館かもがわ

⑪ 森本一彦、紀の川新報・きのかわ新聞を読む―地方新聞から見る伊都地方、橋本市図書館講座（招待講演）、2014 年 7 月 27 日、橋本市教育文化会館

〔図書〕（計　2 件）

① 落合恵美子編著『徳川日本の家族と地域性―歴史人口学との対話』、ミネルヴァ書房、2015、546（森本一彦・平井晶子・小野芳彦「歴史人口学の資料とデータベース」担当）

② 高野文化圏研究会編、2014 年度高野文化圏研究会報告書、高野文化圏研究会、2015、50（編集を担当）

〔図書〕（計　0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://koyabunkaken.blogspot.jp/

６．研究組織
(1)研究代表者
森本一彦（MORIMOTO,Kazuhiko）
高野山大学・文学部・准教授
研究者番号：２０５３６５７８

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：